

〔共通事項〕を生かして感性をはぐくむ図画工作・美術科の授業

— みる・きく・ふれる・つたえる活動を取り入れて—

図画工作・美術科研究会議

太田 景子¹

末口久美子²

鈴木 貴久³

熊谷 佳子⁴

要 約

形や色などにより、情報を的確にわかりやすく伝える視覚伝達の分野にある図画工作・美術科の学習内容は、知識基盤社会といわれる現代社会で重要性を増している。話題の美術展に多くの人が集まっていることや、デザインや質などにこだわりをもち、品物が生産されたり、選ばれたりしていることなども、成熟社会における人の美意識の高まりの現れであるといえる。

図画工作・美術科の学習指導要領の今回の改訂では、社会的なニーズに答えるために、義務教育の小中学校の授業で、「生きる力」へとつながる図画工作・美術科の基礎的・基本的な能力をしっかりと育成することが求められた。そこで新設された〔共通事項〕は、形や色等の性質や感情を理解し、それらをもとにイメージを広げていく能力を育成する指導事項であり、図画工作・美術科のすべての学習の支えとなるものである。本研究では、「みる・きく・ふれる・つたえる」という体験活動や言語活動を取り入れた検証授業を行い、〔共通事項〕の視点をもって教師が授業を進めることを試みた。そのことで、児童生徒は新しい見方を発見し、イメージの広がりを実感することができた。このような指導の実践により、新しい学習指導要領に基づく、児童生徒の感性をはぐくむ授業の在り方を探究した。

キーワード：〔共通事項〕、形、色、イメージの広がり、体験活動、言語活動、新しい見方、感性

目 次

I 主題設定の理由	66	(3) 検証授業③	76
1 児童生徒の姿から	66	3 研究仮説の検証	78
2 新学習指導要領の全面実施に向けて	66	(1) 児童生徒の様子や変容	78
3 授業づくりに向けて	67	(2) 作品から	81
II 研究の内容	67	III 研究のまとめ	82
1 研究の進め方	67	1 研究から見えてきたこと	82
(1) 研究仮説の設定	67	(1) 〔共通事項〕を生かし	
(2) 児童生徒の実態調査	68	感性をはぐくむ	82
(3) 検証授業の構築	70	(2) 〔共通事項〕の意味や可能性	82
2 授業の実際	70	2 今後の課題	83
(1) 検証授業①	70	参考文献	84
(2) 検証授業②	73	指導助言者	84

¹川崎市立西中原中学校教諭（長期研究員）

²川崎市立四谷小学校教諭（研究員）

³川崎市立京町小学校教諭（研究員）

⁴川崎市立南大師中学校教諭（研究員）

I 主題設定の理由

1 児童生徒の姿から

児童生徒が自分の夢や希望を形や色で表し、夢中になって活動する姿に、私たち教師は喜びを感じる。一方で、画用紙を目の前に、全く手が進まない児童生徒がいることも事実である。発達段階に伴い、自分の世界から抜け出し、周囲のまなざしを意識して、思いのままに自己表現ができなくなることがある。その葛藤を受け止め昇華させてやるのが教師の役割であり、そのことを否定的にとらえる必要はない。しかし、小学校低学年の児童の中にも、一本の線が描けずにいる姿がある。それは、本来もっている創造のエネルギーを、私たち大人がうまく引き出せないでいる状態に他ならないのではないだろうか。創造力や感性をはぐくむ授業をつくることは、図画工作・美術科教育に携わる教師の使命である。児童生徒が生き生きと取り組む授業の実現をめざし、本研究を立ち上げた。

2 新学習指導要領の全面実施に向けて

新しい学習指導要領の全面実施が目前にせまっている。「生きる力」の一層の実現を図るその理念は、本研究の指針となるものである。図画工作・美術科の改訂では、育成すべき児童生徒の資質や能力と学習内容の関係が明確化される中で、小中学校において領域や項目などを通して共通に働く資質や能力が明らかになり、それを育成する指導事項が〔共通事項〕として示された。(下の表を参照)

表1 小学校・図画工作、中学校・美術〔共通事項〕¹⁾

小学校・図画工作〔共通事項〕			中学校・美術〔共通事項〕
(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。			
ア	低	自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。	形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解すること。
	中	自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。	
	高	自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。	
イ	低	形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	中	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	
	高	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。	

〔共通事項〕の内容は、図画工作・美術科のすべての学習の根底に流れる大切なものである。それは、これまでの授業でも、当然のごとく扱われてきた内容であるが、今回の改訂では、それらの能力を図画工作・美術科の表現や鑑賞の活動はもちろん、広く生活の中でも生かされる力として、教師が意識して繰り返し指導することで、しっかりと児童生徒の身につけることが改めて確認された。〔共通事項〕を意識した指導により、児童生徒の形や色等からイメージしていく能力をより一層豊かにすることができれば、創造性や感性、ひいては「生きる力」をはぐくむことができると考えられる。

このことから、新しい学習指導要領の理念を授業で具現化し、新設された〔共通事項〕を適切に位置づけた指導を広く示していくことを本研究の目的ととらえ、研究主題を次のように設定した。

研究主題

〔共通事項〕を生かして感性をはぐくむ図画工作・美術科の授業

¹⁾ 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 2008年 p.29, 41, 54

文部科学省 「中学校学習指導要領解説 美術編」 2008年 p.48, 70 より抜粋

3 授業づくりに向けて

児童生徒の中に、描く手が進まなくなってしまう子がいることは前述したが、大人になると、美術鑑賞の愛好者は多いものの、やはり自ら表現することには苦手意識をもつ人が多い。このことについて、元文部科学省主任視学官で聖徳大学名誉教授の遠藤友麗は「これまでの美術科がことさら自由や創造という美名の下に放任的な自由表現や流行としての奇をてらった目新しさに流されすぎ基礎的な技能等の定着をないがしろにしてきた結果、基礎も身に付かないで苦手意識をもつ多くの人たちを輩出してしまった結果であることをわれわれ美術教師は謙虚に反省しなければならない。」²⁾と言及している。児童生徒の活動が主体で教師の指導が見えない図画工作・美術科の授業にその問題の原因を依拠しているのである。

新設された〔共通事項〕は、図画工作・美術科のすべての学習の最も本質的な部分の指導を指している。よって、この指導の徹底は、基礎的能力や感性をはぐくみ、大人になっても表現することや鑑賞することに抵抗なく親しめる人の育成につながり、その問題は改善されるはずである。

それでは、〔共通事項〕を適切に位置づけた指導とはどのようなものなのだろうか。

児童生徒が形や色、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情を理解するには、まず、それらに直接ふれる体験が何より必要である。しかし、中には、直接的な体験が少ない子もいる。体験を豊かにするために教室の中でできることには限りがあるが、教師や友達の話の聞いたり、実物ではなくても画像や映像などで鑑賞したりする疑似体験も含めれば、多くの可能性があると考えられる。

そこで、教師は、〔共通事項〕の視点で感じたことやわかったことを友達同士で共有する場面を意図的に設定する。そのことで、児童生徒は、新しい見方に気づき、形や色をより豊かにとらえられるようになると考えられる。例えば、ただの「三角」ではなく、「鋭く痛い感じのする三角」や、ただの「オレンジ色」ではなく、「明るく人を元気づけるオレンジ色」というように形や色をとらえる。そのような形や色の性質や感情の理解の深まりは、思考力や判断力、表現力の育成につながり、表現や鑑賞の活動に生き生きと取り組む態度を育てることができると考えられる。

これらの理由から、児童生徒の感性をはぐくむことができるよう〔共通事項〕を生かした授業づくりの糸口となる体験活動や言語活動を具体的に示す研究副主題を設定した。

研究副主題

みる・きく・ふれる・つたえる活動を取り入れて

II 研究の内容

1 研究の進め方

(1) 研究仮説の設定

「I 主題設定の理由」で述べたことを踏まえ、次のような仮説を立てた。

研究仮説

〔共通事項〕を生かして、題材や授業の展開を工夫すれば、児童生徒の形や色、材料などへの感覚がより豊かになり、自分のイメージが広がり、感性がはぐくまれる。

上記の仮説をもとに、〔共通事項〕を指導の中に適切に位置づけることによって、児童生徒一人一人が感性を働かせて、意欲的に造形表現活動をしたり、鑑賞活動をしたりする授業をつくることを目標にして、研究を進めた。

²⁾ 遠藤友麗 「資質・能力を育てる 中学校美術科編『A 表現』 明治図書出版 2001年 p.6

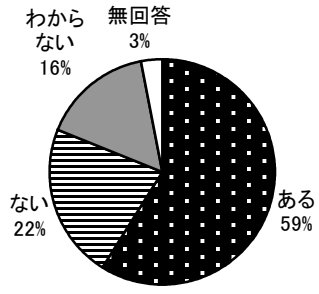
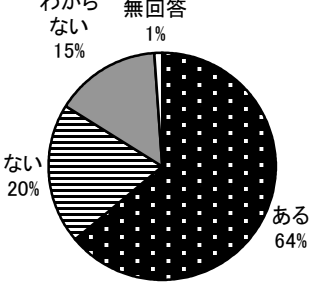
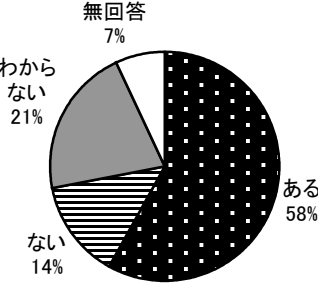
(2) 児童生徒の実態調査

仮説を明らかにするためには、感性の育ちを確認する必要がある。よって、研究員の所属学年の児童生徒を対象に、色や形、絵画作品や材料などから浮かぶイメージ等を問う意識調査を実施した。調査結果を以下に報告する。

表2 児童生徒への意識調査まとめ・I (本研究会議作成)

質問内容	多かった答え			特異な答え		
	小4	小5	中3	小4	小5	中3
質問1:「みどり」という色から思い浮かぶイメージを書いてください。	葉っぱ 草	自然 葉っぱ	葉木	やさしい 省エネ	和 サラサラ	目に良い 知性
質問2:「むらさき」という色から思い浮かぶイメージを書いてください。	ぶどう なす	ぶどう 毒	ぶどう なす	不安な気 持ち	もやもや なめらか	大人 上品
質問3:次の形から思い浮かぶイメージを書いてください。	雪だるま ひょうたん	雪だるま ひょうたん	雪だるま ひょうたん	砂どけい ありの体	はずんで いる感じ	マトリョ ーシカ
質問4:次の模様から思い浮かぶイメージを書いてください。	しまうま とら	しまうま トラ	しまうま 木	ムンクの さげび	血管 たきつぼ	炎 油と水
質問5:次の絵から思い浮かぶイメージを書いてください。	ねている ひるね	ねている 夢をみてる	ねている ひるね	白雪姫 気持ちいい	マッチ売 りの少女	ほかほか 夏休み
質問6:紙からつくられているものと聞き思い浮かぶものを書いてください。	折り紙 画用紙	本 折り紙	紙ひこうき 折り紙	しょうじ	きっぷ 紙しばい	扇子 ふすま
質問3の形	質問4の模様		質問5の絵			
						
			Albert Anker, Girl Sleeping On a Wooden Bench, The Museum of Fine Arts, Bern, On loan, C. R. No. 573			

表3 児童生徒への意識調査まとめ・II (本研究会議作成)

質問内容	最近、何かを見て、「きれい」と思ったことはありますか。		
	【小4】	【小5】	【中3】
			
「ある」と答えた人は何を「きれい」と思いましたか。具体的に書いてください。	小4	お花 (13人)・海 (5人)・空 (4人)・太陽 (4人)・絵 (4人)・色 (3人)・月の上の金星・カードのきらきら・しおひがりの貝・シュシュ 等	
	小5	花 (6人)・空 (4人)・自然 (3人)・宝石 (3人)・沖縄の海 (2人)・ゴッホの絵 (2人)・そうじをしてきれいになったとき (2人)・ねこの毛並 等	
	中3	夕日 (8人)・青い空 (5人)・風景、景色 (4人)・夜空 (3人)・夜景 (2人)・海 (2人)・花火 (2人)・水たまりにうつった空・シンメトリーの家の形 等	

質問内容	あなたは、図工や美術の時間に、作品を見て感想を書いたり、作品を描いたりつくったりするときにすぐにどうしようか思いつくほうですか。
【小4】	【小5】
<p>【小4】のデータ:</p> <ul style="list-style-type: none"> なかなか: 33% わりとすぐに: 31% すぐに: 18% なかなか: 9% わからない: 3% 無回答: 6% 	<p>【小5】のデータ:</p> <ul style="list-style-type: none"> わりとすぐに: 33% すぐに: 28% なかなか: 30% わからない: 1% ぜんぜん: 6% 無回答: 2%
【中3】	
<p>【中3】のデータ:</p> <ul style="list-style-type: none"> わりとすぐに: 29% なかなか: 36% すぐに: 7% ぜんぜん: 13% わからない: 7% 無回答: 8% 	

調査の対象となった総数は、市内小学校4年生89名、小学校5年生87名、中学校3年生86名である。そして、表2～4から、次の内容を分析し、研究仮説の裏づけとした。

《意識調査結果の分析 表2・3から》

(○はわかったこと、●は課題となること)

- 色や形、材料などからイメージを連想する答えでは、児童生徒の体験や知識の増加に応じて様々なバリエーションへと答えの言葉が広がりを見せており、経験値によってイメージを表現する力が豊かになる様子が読み取れた。³⁾
- 新しい小学校学習指導要領解説図画工作編に『感性』は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性をはぐくむ重要なものである。⁴⁾とあり、感性は本来備わっているものだけではなく、知性と一体化することによって、創造性を発揮するものへと研ぎ澄まされていくことがわかる。意識調査でも、学年が上がるにつれ、「海」という答えでも「沖縄の海」のように、「空」という答えでも「水たまりにうつった空」のように、より具体的な対象を答えるようになり、自分の体験や知識の増加に伴い、それらを基に対象をより具体的にイメージできるようになる様子があった。また、中学3年生の答えでは、「シンメトリーの家」の形」という表現があり、知識や語彙をより多く獲得することで、自分の表したい感じをより豊かに表現できるようになる様子を読み取ることができた。体験や経験から豊かになった感性が知性と一体化することにより、発揮されることが読み取れた。
- 経験や環境、知識や語彙によってイメージを表現する力に違いが出てくるのであれば、教育によって、表現力をより豊かにし、感性をはぐくむことは可能であると考えた。
- 教室での体験は限りがあるかもしれないが、友達の体験談を聞いたり映像を見たりする疑似体験をすることでも、イメージをより豊かにすることができると考えた。

³⁾ 京都大学大学院の矢野智司は、美術史家のクラークの言葉から「芸術家のイメージは、彼らの子ども時代の視覚の瞬間と深い関連がある」ことを示唆している。

矢野智司「子どもの遊び体験における創造的瞬間」 佐藤学編『児童生徒の想像力を育む』
東京大学出版会 2003年 p.60

⁴⁾ 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 2008年 p.7

《意識調査結果の分析 表4から》

(○はわかったこと、●は課題となること)

- 発達段階に応じて、「アイデアが思い浮かばない」と答える児童生徒の数が増えていることから、特定の知識の獲得により、イメージが固定化され、発想の幅がせまくなるという側面もあると考えた。知識の与え方に、配慮が必要である。

これらの分析から、生活体験を豊かにしたり、整理したりするために、形や色にふれる体験、素材体験、言語活動などを取り入れた授業を行えば、体験から得たものに基づき、形や色、イメージを豊かにとらえる力が育成され、感性をはぐくむことができると考えた。

(3) 検証授業の構築

兵庫教育大学理事で美術教育学専門の福本謹一は、「授業の中で、いろいろな視点で豊かに感じ取る体験を積み重ね、その喜びを味わわせていくことにより、感じ取ろうとする姿勢や感じ取る力を育成し、感性を豊かに育てていくことが大切」⁵⁾と述べ、そのために、〔共通事項〕を位置づけた指導の重要性を説いている。児童生徒一人一人の生活などの体験は様々であるが、それをベースに体験的な活動等を取り入れながら、形や色の性質や感情等を確認し整理するような場面設定を教師は展開し、児童生徒が新たな見方に立ったり、見方を広げたりする体験を積み重ねていくことが大切ということである。そのことが、ひいては、児童生徒の感性の育成へとつながるのである。

そこで、次の4つの視点を取り入れ、検証授業を構築した。

- ①「みる・きく・ふれる・つたえる」の活動を取り入れた授業
- ②教師が、児童生徒の生活体験から出てくる発想を引き出し、題材のイメージをとらえることへとつなげる手立てをとる授業
- ③教師が、発想・構想が浮かびにくい児童生徒を把握し、フォローできる授業
- ④児童生徒が、自分のアイデアを形や色や材料等に置き換えてとらえ、表現につなげることができる授業

2 授業の実際

(1) 検証授業①

- ①題材名 『オーガニック・スカルプチャー（自然のものをテーマにした抽象彫刻）』

中学校3年生対象・10時間扱い

- ②構 想 * 題材の指導計画

イメージカードゲームと抽象彫刻の理解（1時間）*本時
「自然のもの」からテーマを選び、抽象化する（1時間）
抽象化した形を立体形として考える（1時間）
彫って、磨く制作（7時間）

* 題材について

自然のものをテーマにして、抽象的に表現する。風・空気・虹など、自然を幅広くとらえ、外見の特徴だけではなく、テーマの内面のイメージなども表現できるようにして、抽象表現の面白さや多様性に気づけるようにする。初めは平面的に考えてから、石膏の角材をつかった彫刻作品へとステップを追って進める。材料の特徴により、形や制作方法が制約される面もあるが、限られた容量のなかでつくりたい形をどのように削り出し、自立させるか等の技能面で工夫する能力も育成したい。豊かに発想したり表現したりすることの面白さにふれ、生徒が自由に表現できる楽しさを味わえるよう、わかりやすい授業を心がけたい。

⁵⁾ 福本謹一・水島尚喜「中学校 新学習指導要領の展開 美術科編」明治図書出版 2009年 p.33

③本時の学習指導



ア) 目標と評価 抽象表現のおもしろさと可能性を知る

項目	評価規準	A「十分満足できる状況」	Bを実現できない生徒への手立て
	B「育てたい能力・態度」		
関心意欲態度	・イメージカードゲームに取り組み、抽象の表現を味わおうとしている。	・イメージカードゲームの抽象的な形の表現に興味をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	・様々な友達の見方や考えを知ることで見方を広げるようにながす。
鑑賞の能力	・感性をはたらかせ、イメージカードに描かれた形から、よさや美しさを感じ取っている。	・感性や想像力をはたらかせ、対象のイメージや表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもっている。	・友達の見方や考えを聞くことで、様々な工夫点に気づかせる。

イ) 準備 ・生徒…教科書、資料集、筆記用具

・教師…プロジェクター、テレビモニター、ワークシート

ウ) 展開

過程	時間(分)	生徒の活動 言語活動	教師の働きかけと研究の視点 〔共通事項〕	評価(方法)
課題把握	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と流れを理解する。 <p>抽象とは何か、言葉にして考えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいとイメージカードゲームについて説明する。 	
活動①	15	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージカードを見て、それぞれの形がどんなものに見えるかを考える。  <p>ワークシートに自分の考えをまとめ記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしやすい形から順にカードを見せ、何に見えるかと聞く。 <p>みる・きく活動</p> <p>○や△などの形や線の特徴を理解し、イメージをとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的にイメージカードゲームに取り組んでいる。 <p>(活動の様子) (ワークシート)</p> <p>I 美術への関心・意欲・態度 IV 鑑賞の能力</p>
活動②	10	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表しあい、一つの形からさまざまな発想ができることを知る。  <p>自分の考えを発表したり、友達のことを聞いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたことや友達のことを聞いて気づいたことなどをワークシートにまとめるように言い、考えを整理する。 <p>みる・きく・つたえる活動</p> <p>友達の発表を聞いて、自分の考えを広げ、形の特徴をより豊かにとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや表現の工夫などを感じ取っている。 <p>(活動の様子) (ワークシート)</p> <p>I 美術への関心・意欲・態度 IV 鑑賞の能力</p>
活動③	15	<ul style="list-style-type: none"> ・立体的な作品を鑑賞して、次の活動のイメージをもつ。  <p>鑑賞して感じ取ったことを、ワークシートにまとめ記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞させるなかで、立体作品の表現の工夫に気づかせる。 <p>みる・きく・つたえる活動</p> <p>作品の形や色から、作品のもつ雰囲気や内面的な感情にせまり、対象のイメージをとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象表現に親しみ、理解を深めている。 <p>(活動の様子) (ワークシート)</p> <p>I 美術への関心・意欲・態度 IV 鑑賞の能力</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でわかったことや気づいたことをまとめ、発表する。 <p>自分の考えを発表したり、友達のことを聞いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習からの学びを生徒の言葉でふり返るようにながす。 <p>きく・つたえる活動</p>	

④授業の考察 (○は〔共通事項〕を意識し取り入れたこと、●は課題となる点)

- 研究副主題から、「みる・きく・つたえる活動」を取り入れた。
- 一つの形から、ふくらんだ発想について、教師は生徒に発表させ、一つ一つの答えを丁寧に確認した。多くの意見が出た後に、他の発想はないかと投げかけ、さらに対話を続けた。そのことで、生徒の形に対するイメージがより広がっていく様子がみられた。
- イメージカードゲームは、発想を引き出す導入部に有効な手立てであった。自分で考えた見立てを発表し、友達の見方を聞くことで、形の見方やとらえ方が広がり、イメージが膨らんでいた。

【生徒達の発想の一例】 「この形があなたには何に見えますか？」

向きを変えると発想も変わる。

また向きを変えると…?

生徒A：上を向いている鳥
生徒B：ワトリンム
生徒C：あしか

生徒D：たつまき
生徒E：砂時計

生徒F：風にゆられている旗

友達の様々な意見を聞いたり、新たな視点で見たりすることで、自分の見方や形のとらえ方を広げることができた。

- 生徒から出てきた様々な考えや意見を、教師や他の生徒が聞くだけでは発展性がないことが見えてきた。様々な発言の要旨を教師が整理することで、生徒の考えが次のステップとなる表現活動へとつながる。次の授業では、生徒から出てきた発想を、たとえば板書などを通して教師がまとめ、分類するなどして整理する手立てをつくることが課題と考えた。次に示すトランスクリプトで噴出し部分に示すような働きかけが、次に生徒が自分のつくりたい形をイメージしていく際の一助になると考えられる。そして、そのような〔共通事項〕を意識した働きかけを教師が瞬時にできるようにするためには、題材で何を学ばせたいのかを教師が十分に把握し、同時に、教師の問いに対する生徒の反応を予め教師が予想し授業を進めていく余裕が必要である。

【先生 (T) と生徒 (S) の言語活動のトランスクリプト (録音したものを文字に起こしたもの)】

T ; だいたい自分の中のアイデア、イメージは出しつくしたと思うので、他の人がどんな風に見えるのか、形っているんな意味があるんだなあっていうことをね…自分の考えた意見を積極的に発表してください。

はい、じゃあ、Aさん。

S (A) ; 風にゆられている旗。

T ; 「風にゆられている」
っていうのがポイントだね。
風にゆられている三角形の旗。
確かにこの角度から見ると旗。
書いた人はいいけれど、気づかなかつたなあと思う人は、他の人の意見を書いてください。
この角度で見るとね、また、違うんだけど。 それじゃ、Bさん。

S (B) ; 上を向いている鳥。

例えばこの場面で、教師が〔共通事項〕を意識して、「なぜ風にゆられてみえるのか」を確認する。そのことで、直線と曲線の造形要素のそれぞれの働きを生徒が理解し、次のステップで自分が形をつくるときに使える知恵になると考えられる。

⑤次の授業に向けて

文部科学省初等中等教育局教科調査官の村上尚徳は、「〔共通事項〕というのは、造形要素でとらえたり、そこからいろんな感じ方、考えをもつというのは、美術の重要なところですから、ただ漠然と感じなさい、ではなくて、具体的な指導、支援として児童生徒に、教師として示していく。あるいは

意図して、気づかせるようにしていく。こういうところが大事なところだというふうに思います。」⁶⁾と述べ、形や色、材料などの性質や感情、感じなどを児童生徒に理解させるため、教師が理解へと導く道筋をつくることの必要性を説いている。また、中学校の新しい学習指導要領の〔共通事項〕を位置づけた指導についての解説には、「構想の場面で、自分が表現したいことを具体的にアイデアスケッチなどで表すときに、形や色彩、材料、光などの造形的な要素を意識させて『奥行きが感じられる形』、『落ち着いた感じの配色』などを考えさせたり、主題に照らして全体のイメージをとらえさせながら構想を練らせたりすることなどが考えられる。」⁷⁾と書かれ、造形的な要素の認識の必要性も説かれている。これらのことと、検証授業①でのふり返りを受け、教師が意図的に造形的な要素を示す働きかけをするなどして、児童生徒の発想を整理し、次の発想やイメージの広がり、表現活動へとつなげることが次の授業の課題になるとわかった。そして、整理するときには、形や色の造形的な特徴、性質、もたらす感情などを意識させ、〔共通事項〕を指導に位置づけていくことが大切である。しかし、福本謹一は、「ただ、色や形（色彩）、造形的な特徴、イメージといった用語にのみ着目すると、要素還元的な見方に堕してしまい、ややもすると造形要素や造形原理のみを〔共通事項〕として指導することと短絡的にとらえてしまうことにもつながりかねない。」⁸⁾と述べ、〔共通事項〕の指導を、統一的な見方などの指導にしてしまわないように警告している。そのためには、児童生徒の反応を教師が事前に十分に予想した上で、幅の広い、豊かな指導を心がけることが大切である。検証授業②では、そのことを意識し、準備を進めた。

(2) 検証授業②

①題材名 『ドリームワールド』 小学校4年生対象・6時間扱い

②構 想 * 題材の指導計画

1次・イメージマップづくり (1.5時間)
2次・絵に表す、彩色、かざりつけ (4時間) *本時はこのうち1時間目
3次・鑑賞 (0.5時間)

* 題材について

今までの様子から、体験的な学習と関連させた題材で、児童生徒はより形や色を具体的に感じ取って絵や立体に表すことができると感じている。そこで、本題材では、夏休みの楽しかった出来事を思い出し、その場所や体験がさらに楽しくなるような夢の世界を加えて、「自分が行ってみたいドリームワールド」を描くことにした。楽しかった場所や体験の映像をそのまま再現しようとするのではなく、だれもが行きたくなるような場所に変化させながら描いていくことで、より自由な表現が引き出せるようにして、仕上がったとき、「ほら、行ってみたいくなるでしょ」と自慢できるようにしたい。

③本時の学習指導

ア) 目標と評価 楽しく夢いっぱい想像した夢の世界を表現する方法を考えたり、それに合う材料を選んだりすることができる。

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
評価規準	想像の世界に思いをはせ、いろいろな表し方で、絵に表す活動を楽しもうとしている。	行ってみたい想像の世界に思いを広げ、形や色や材料の表し方を考え、想像を膨らませている。	絵の具やクレヨンなどを使いながら、表し方を工夫している。




イ) 準備 ・児童・・・絵の具、クレヨン、墨汁、身近材
 ・教師・・・画用紙、写真(参照用)、ローラー、ぼかし網、色紙 など

⁶⁾ 村上尚徳 中学校新教育課程説明会における説明 2008年7月14日

⁷⁾ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術編」2008年 p. 29

⁸⁾ 福本謹一「〔共通事項〕を生かす図画工作、美術の授業改善に向けて」『形 Forme』No. 289 日本文教出版 p. 4-8

ウ) 展開

過程	時間 (分)	児童の活動 言語活動	教師の働きかけと研究の視点 〔共通事項〕	評価(方法)
課題把握	10	<p>○友達どんなドリームワールドを描こうとしているか、イメージマップをもとに予想する。</p> 	<p>・何人かのイメージマップを紹介して、どんな世界が描かれるのかと期待させ、自分の絵を早く描きたくするような声かけをする。</p> <p>・言語活動を通して、自信のない児童でもイメージが広がるようにする。</p> <p>みる・きく・つたえる活動</p> <p>イメージマップのキーワードを形や色に置き換えてとらえ、どんな絵にしようか、自分のイメージをもつ。</p>	
活動①	30	<p>○自分のイメージしたドリームワールドを画用紙に描いていく。</p>  	<p>・描いている児童に、机間を回りながら声かけをしていく。</p> <p>・児童のイメージマップに出てきたキーワードに関連する資料を用意し、掲示するなどしておく。</p> <p>・想像の世界では、実際の形や色とは違うものにしたたり、実際にはありえないものが出てきたりしてもよいことを伝える。</p> <p>・描きたいものがいくつもイメージできている場合は、大きさを考えて何から先に描いたらいいか考えるよう投げかける。</p> <p>・絵で描きあわせないときは、身近材を取り入れることを助言する。</p> <p>・さまざまな画材による表現のヒントコーナーを用意しておく。</p> <p>みる・ふれる・つたえる活動</p> <p>自分の思いをふくらませ、形や色や材料を工夫して、自分のイメージをもつ。</p>	<p>・行ってみたい夢の世界の想像を広げて、表現方法を工夫しながら絵に表している。 (活動の様子)</p> <p>I 造形への関心・意欲・態度</p> <p>II 発想や構想の能力</p> <p>III 創造的な技能</p>
活動② まとめ	5	<p>○今日イメージしたことや描けたことをふり返る。</p> <p>自分がイメージしたことや描いたことを発表したり、友達の発表をきいたりする。</p>	<p>・児童の取組の様子から、何人かの児童を指名して、できたことをまとめる。</p> <p>きく・つたえる活動</p> <p>自分の感覚や活動を通して、形や色の組合せなどの感じをとらえる。</p>	

④授業の考察 (○は〔共通事項〕を意識し取り入れたこと、●は課題となる点)

- 研究副主題の「みる・きく・ふれる・つたえる活動」を取り入れた。
- イメージマップを通して、児童がどんな「ドリーム・ワールド」を描こうと考えているのか、予想することができたので、教師は児童の気持ちに即したアドバイスをすることができた。
- 発想や構想の源は、形や色や材料にふれる体験や経験であるが、それを言葉によって引き出すことで、整理したり、深めたりすることができるとわかった。
- 色のイメージをとらえた言葉をまとめ、黒板に貼って、クラス全体で共有した。描き始めから色をつかう児童はいなかったが、富士山の色を塗り始めたときに、「富士山て何色？」と質問しながら描いている児童もいて、色への感覚が深まっている様子があった。



前時に、色のイメージをとらえ、児童の様々な発想をまとめ、掲示した。授業の前後に友達の言葉を確認する児童の姿があった。

○黒板で教師の手作りの実物の見本を見せ、50 インチテレビで児童のイメージマップのキーワードを拡大して映すようにして、ヒントとなる教材の特徴に合わせて、黒板と I C T 機器を使い分けて活用し、キーワードとイメージをつなげ、発想が効果的に広がるように工夫した。



様々な技法の例など実物で見た方がわかりやすいものは黒板に掲示し、児童のイメージマップなど拡大して見た方が見やすいものは50インチテレビで大きく映して見せた。



●発想・構想したことが表現されるには、形や色に十分に親しみ、豊かに感じ取り、自分のイメージを十分にもてるようにすることが大切である。この授業では、イメージマップの活用により、どんな場面を描くのか想像することができたが、その場面を実際に描きはじめるときに、戸惑う姿があった。次の授業では、描きたいもののイメージをより具体的にして、形や色や材料で表せるように、形や色などの感じをとらえられる造形的な言語でコミュニケーションをとるなどして、自分のアイデアを表現につなげられるようにすることが課題と考えた。具体的には、次のトランスクリプトの例の中で吹き出し部分に示したような問いをすることである。

【トランスクリプトの一例】

T : それから、このイメージマップをもう一度返すのだけれども、その前に、何人かの紹介してみましょう。

T : えっ 楽しみ？

S : あっ あの絵にうつる。

S : 俺のうつして。

S : 俺のうつるよ。

S : あ〜〜〜

S (みんな) : アハハハ・・・

T : あ〜〜っていっちゃったから、だれのかわかつちゃったけれど、でも・・・

T : ちょっと、見てみよう。

T : シャチ VS シャチ。 シャチがあらわれてくる世界。 シャチ VS シャチだから何だろう。

S : ひきわけじゃない？

T : ひやけ？ ひきわけ？ なるほどね、結果が先に見えるのね。

T : シャチがぶつかって戦っている世界なのか、それとも大きなシャ違いっぱいなのか、一つのこの言葉からでも、イメージがいっぱいわいてくるよね。

自分のイメージを絵に表していく段階では、体験や経験したことを形や色に置き換えるために、形や色を具体化する言葉かけが必要になる。例えば、この場面では、シャチの「形は？」「大きさは？」「色は？」と児童のイメージを表現につなげられるように整理する働きかけを積極的にしていく。

⑤次の授業に向けて

埼玉県立北教育センターの三澤文人は、「単に経験すればイメージが豊かになるものではない。イメージする力は、発見したり試したり、外観に働きかけ、関係性を築くことによって高まっていくのである。」⁹⁾と述べ、経験は外観との関係性の構築によりイメージする力となることを説いている。つ

⁹⁾ 久保村里正編「これからの教科教育 図画工作・美術科」文教大学出版 2010年 p.43

ウ) 展開

過程	時間 (分)	児童の活動 言語活動	教師の働きかけと研究の視点 〔共通事項〕	評価(方法)
課題把握	5	<p>○名画カードをもとに、画家の特徴について全体で話し合う。</p> <p>○教師の参考作品を見て、これからの活動に見通しをもつ。</p>  <p>描き方の違いや形や色の違いから受ける印象について話し合う。</p>	<p>・児童が書いたことを取り上げ、形や色などについて、視点をもって考えられるようにさせる。</p> <p>・全員で形や色、筆使いなどについて視点をもって考えられるようにする。</p> <p>みる・きく・つたえる活動</p> <p>画家ならではの形や色の表現方法について話し合い、その特徴を理解する。</p>	<p>・表現方法から感じるイメージについて考えている。(活動の様子)</p> <p>Ⅱ 発想や構想の能力</p>
活動①	35	<p>○画家の特徴を意識し、なりきったつもりで絵を描く。</p>   <p>画家ならではの表現の特徴を共有し合う。</p>	<p>・特徴的な表し方をするのに、どのようにしたらよいかわからない児童の様子があったら、アドバイスする。</p> <p>・筆の使い方、色使い、線や面での構成の仕方について特徴を感じられるように、画家の絵を飾って置く。</p> <p>みる・ふれる活動</p>  <p>色や表し方から受けるイメージをもとに、画家ならではの特徴をとらえ、自分の表し方で表現できるようにする。</p>	<p>・自分の表したいイメージや感じにあった表現方法を選び、絵に表している。(活動の様子・作品)</p> <p>・用具を選んだり、絵の具に混ぜる水の量を調節したりしながら、表現している。(活動の様子・作品)</p> <p>Ⅲ 創造的な技能</p>
活動② まとめ	5	<p>○友達の絵を見ながら、本時にできたことをふり返る。</p> <p>画家ならではの表現の特徴をつかんで絵に表してみても感じたことを発表する。</p>	<p>・画家になりきったつもりで絵を描くのはどんな感じがしたか、具体的に答えられるように導く。</p> <p>きく・つたえる活動</p> <p>友達の作品と自分の作品の形や色などの特徴を感じとる。</p>	<p>・友達と自分の作品のよさを感じようとしている。(活動の様子)</p> <p>I 造形への関心・意欲・態度</p>

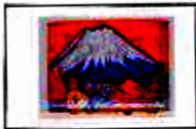
④授業の考察 (○は〔共通事項〕を意識し取り入れたこと、●は課題となる点)

○研究副主題の「みる・きく・ふれる・つたえる活動」を取り入れた。

○名画の鑑賞の際、形や色の視点から言葉を記入していく名画カード(図2)を取り入れて、〔共通事項〕の視点から絵のイメージをとらえやすいように導いた。児童のイメージを、教師の意図する方向に導いてしまうようなワークシートではなく、自由に発想を記入できるようなスタイルではあるが、〔共通事項〕にそって、形や色・感じというキーワードを取り入れて方向性を示し、造形的な特徴を記入しやすい形式にした。

〔共通事項〕にそった「色」「形」「感じたこと」というキーワードを取り入れ、鑑賞の視点を示し、児童が造形的な特徴をとらえられるようにした。

図2 名画カード

【名画カード】	絵からのイメージ	組 名前
 <p>作者 方岡 ちほ子</p> <p>タイトル 河口湖の富士</p>	<p>色(色づかいなど)</p> <p>はいけいけま赤アはくりよくかあるの絵だと思った。</p>	
	<p>形(面白い形・不思議な形)</p> <p>木が、目立つ色でか、水ののびがくいいと思った。</p>	
	<p>感じたこと</p> <p>富士山が堂々として、方岡さんらしい絵だと思った。</p>	

○画家の技法という表現の手がかりがあったので、児童が画家の作品の色や形からイメージをとらえ、表現へと結びつけやすい展開となった。名画カードの中で言葉でとらえた名画の色や形や感じなどの特徴を自分の表現にして、描いている様子があった。作品を鑑賞する活動が、表現への意欲を高める強いきっかけになることを改めて実感できる場面であった。

●色や形という視点を与えることができたが、色がどうなのか、形がどうなのか等、より具体的な状態をイメージできると、表現に結びつきやすいことが見えてきた。

⑤今後の授業に向けて

表現や鑑賞の活動を通して、児童生徒は形や色や材料に関する様々な気づきをしている。児童生徒の様子、発言、作品、ワークシートなどから、教師がその気づきに反応して、ねらいを造形的な特徴で整理する働きかけが大切ということが、この検証授業を通してわかった。次にあげるトランスクリプトのような例である。

【トランスクリプトの一例】

T ; 例えば、この富士山だと、この辺りがみどり、なんかここにちょっとオレンジが入っていて、ここがうすい青。ちょっと微妙にかわっていると、何でリアルになるんだろう？

S ; 自然はその色がすべてじゃない。

T ; 何何？ あっ むずかしいこと、言ってくれたね。

確かに緑でも、葉っぱ一枚一枚色がちがったり、かげがあったり、かげがある緑があったりするから、いろんな色の調整をすると、やっぱり、ちょっと奥行きとかがでるんだよね。

このような児童の気づきを取り上げ、色などの造形的な特徴や効果を教師が確認する働きかけが大切。

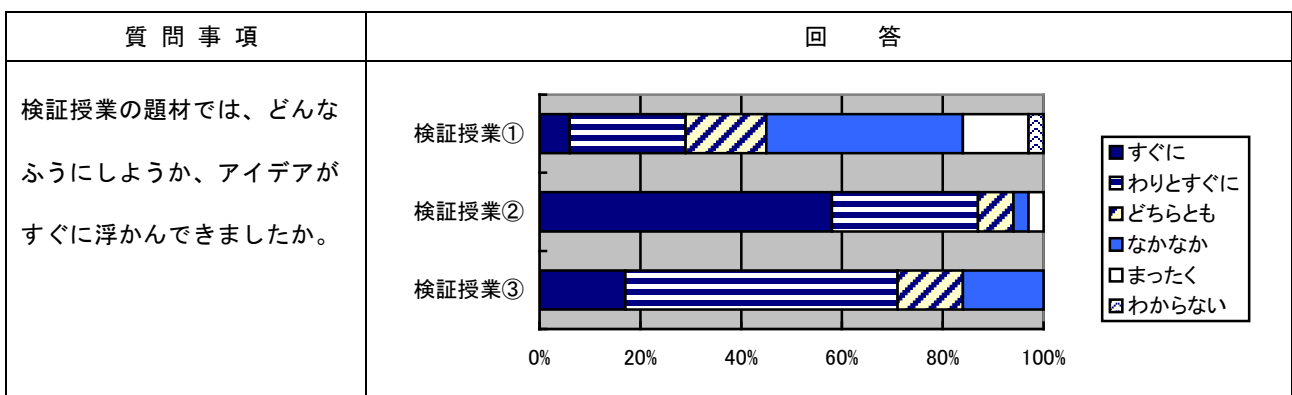
一人の児童生徒の発展的な気づきを、個人のものだけで終わりにしないで、クラス全体の気づきにできるように、教師はコーディネーターとしての働きをする。児童生徒に形や色などの図画工作・美術科ならではの造形的な視点を与えて考えさせ、よい気づきがあったら拾い上げて共感し、クラスのみなで共有し、確認しながら、クラス全体の形や色等をとらえる力を高めていく工夫を今後の授業で継続していきたい。

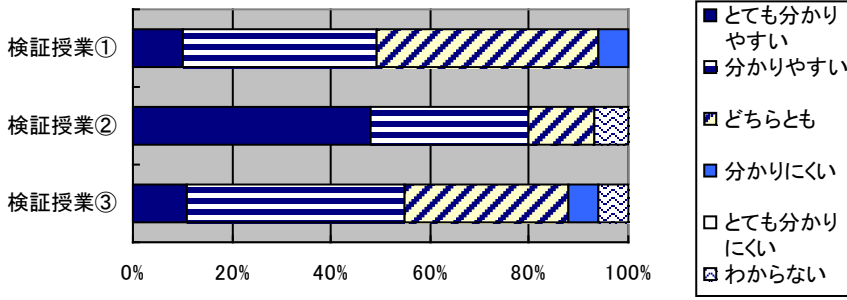
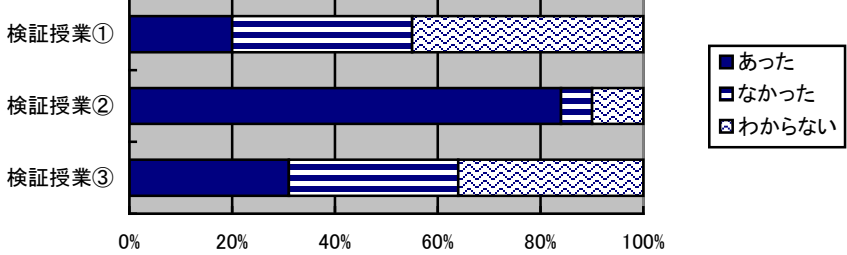
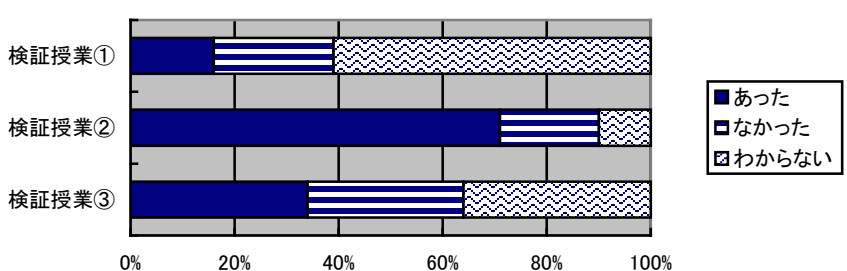
3 研究仮説の検証

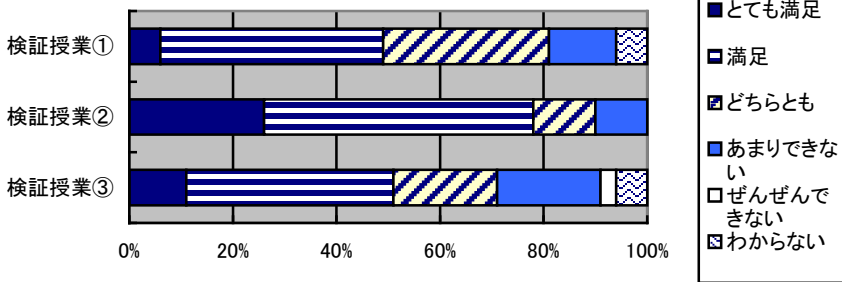
(1) 児童生徒の様子や変容

検証授業で取り上げた題材の終了時に、その題材に関する意識調査を行い、題材をふり返った。検証授業を行ったクラスの児童生徒、市内小学校4年生31名、小学校5年生30名、中学校3年生31名を対象とした。

表5 児童生徒への事後意識調査まとめ(本研究会議作成)



<p>検証授業の題材では、先生のお話やアドバイスはわかりやすかったですか。</p>	 <p>検証授業①</p> <p>検証授業②</p> <p>検証授業③</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ とても分かりやすい ■ 分かりやすい ■ どちらとも ■ 分かりにくい □ とても分かりにくい □ わからない <p>* 質問したらすぐに具体的に言ってくれたからわかりやすかった。(小4)</p> <p>* 物の使いかたがわかりやすかった。(小4)</p> <p>* 先生がかいた絵がわかりやすかった。(小5)</p> <p>* 細かいところをしっかりと教えてくれた。(小5)</p> <p>* 実際に写真などをみせてくれた。(中3)</p> <p>* 作品に動きをつけることを教えてくれた。(中3)</p>
<p>検証授業の題材で、あなたの作品づくりのヒントになったものは何かありましたか。</p>	 <p>検証授業①</p> <p>検証授業②</p> <p>検証授業③</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ あった ■ なかった ■ わからない <p>* 友達が木に点をいっぱいやっていたので、くらい絵に点をいれたらいいと気づきました。(小4)</p> <p>* 先生がとった写真を見せてくれた。(小4)</p> <p>* 先生がかいたりんごの絵。(小5)</p> <p>* はっぱなどをうすくかく方法を先生がやってみせてくれたこと。(小5)</p> <p>* 授業中の話で、動物の口の形を参考にした。(中3)</p> <p>* 今までの経験から、花や虫や香りを参考にした。(中3)</p>
<p>検証授業の題材を通して、形や色や材料のことで何か気づいたことはありますか。</p>	 <p>検証授業①</p> <p>検証授業②</p> <p>検証授業③</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ あった ■ なかった ■ わからない <p>* ストローを使うとリアルな木みたいなのができること。(小4)</p> <p>* 青でも白とか水を入れたりしたら、こい色・ふつうの色・うすい色 まだ私が知らない色がたくさんパレットにありました。(小4)</p> <p>* 絵の具を水でうすめすぎるとにじんでしまう。(小5)</p> <p>* 色を何種類かつかうときれいにみえる。(小5)</p> <p>* ものを立体で見られなかったが、ここを削るとこうなるという風に形が変わる</p>

	<p>ことがわかった。(中3)</p> <p>* 白い石膏だとなんだかさみしい感じがした。色をつけると、感じが変わった。(中3)</p>
<p>検証授業の題材では、満足はいく取組ができましたか。</p>	 <p>* 星空にちゃんときれいにオーロラをつくれたから満足できた。(小4)</p> <p>* みんながやっていないことをできたから満足できた。ローラーの赤の部分でぬりました。(小4)</p> <p>* 色をうまくつかうことができた。(小5)</p> <p>* 自分の頭の中で考えたとおりにできたから、満足できた。(小5)</p> <p>* 先生の協力もあって、自分の思い通りの形に仕上げることができた。(中3)</p> <p>* 自分には、こんなものに見えるのに、他の人にはちがう見え方があるということがわかって、おもしろかったです。(中3)</p>

事後調査から読み取ることでできた内容を、次にまとめる。

<p>《事後意識調査結果の分析》</p> <p>○「アイデアがすぐに浮かんできましたか。」という質問では、検証授業②では、8割以上の児童が、「すぐに浮かんできた」と答えている。イメージマップを取り入れることにより、児童のアイデアが浮かびやすくなっている。言葉によるイメージの概念化はアイデアにつながると読み取った。</p> <p>○「先生のお話やアドバイスはわかりやすかったですか。」という質問では、いずれの検証授業でも、過半数の児童生徒が「わかりやすい」と答えている。「質問したら具体的に言ってくれた(小4)」「作品に動きをつけることを教えてくれた(中3)」など、児童生徒の課題のポイントを具体的にアドバイスすることが、課題解決につながることを読み取れた。</p> <p>○「あなたの作品づくりのヒントになったものはありましたか。」という質問では、教室に多くの掲示物などを用意した検証授業②で、8割以上の児童が「あった」と答えていた。具体的には、友達の取組や教師の働きかけ(写真を見せる、経験を語る)などがヒントになったと答えていた。何気ないことでも、より多くかかわっていくことが大切と気づかされた。</p> <p>○検証授業③では、「先生の絵がヒントになった」という答えが多数あり、教師自ら制作した作品を見本とする姿勢は、児童生徒に伝える説得力があることがわかった。</p> <p>○「形や色や材料のことで何か気づいたことはありますか。」という質問では、検証授業②など、新しく多くの技法を習得するような課題で、多くの児童が「あった」と答えていた。材料や技法などを幅広く試すことのできるような課題に気づきが多くなることがわかる。検証授業①の題材では、石膏の白さを「さみしい」と感じている生徒もおり、教師は、「形」に重きをおき指導しているのだが、それとはちがう視点で、生徒は「色」のことをとらえている。教師のねらいとは、ちがう部分でも、児童生徒は様々な気づきをすることがわかる。その気づきを大切にしながら、そ</p>	<p>(○はわかったこと、●は課題となること)</p>
--	-----------------------------

の題材のねらいにそった指導を心がけ、個に応じた授業を展開していく必要がある。

○「満足はいく取組ができましたか。」という質問では、いずれの授業でも過半数の児童生徒が「満足」と答えていた。「自分の頭の中で考えたとおりにできた(小5)」「思い通りの形に仕上げることができた(中3)」などの答えから、自分のイメージしたことが形や色になって具現化されたとき、満足感を感じていることが読み取れた。

●**検証授業①**の抽象彫刻の題材では、アイデアがすぐに浮かんできたと答える生徒の数が3割にとどまっており、抽象の概念など、難しい言葉で導入をすると、発想が浮かびにくくなってしまっていたことがわかった。難しい内容を、いかにわかりやすく易しい言葉に置き換えて説明していくかがポイントである。

(2) 作品から

①作品A (検証授業①から)

イメージカードゲームを使った導入、粘土でのアイデアスケッチ、スポンジをつかった削り方のイメージづくりなど段階を追って、形の特徴を丁寧に確認する〔共通事項〕を生かした授業展開を行った。形の特徴をとらえるすべを提示することで、生徒にとって、表したい形のイメージが浮かびやすくなった。自分の表現したいことと、形の特徴が合っているのかどうか、考えながら、制作を進める様子があった。教師の働きかけにより、イメージしたことを表現に結びつけやすくなった事例と考察した。



粘土でアイデアスケッチ



どこを削るかイメージング



石膏で完成「クルリン」

②作品B (検証授業②から)



「カラフルハートホテル」

参考になっているもの

教師が黒板に見本を示しておいたローラーで描く方法を試した。



描いた児童のふり返しから

ローラーでにじいろにできて、カラフルになって、きれいにできたので、とても満足できた。

上の作品は、自分が泊まってみたい素敵な部屋を描いている。ローラーに複数の色の絵の具をつけて、にじいろに表すことができ、描いた児童は、この作品をととても満足できた作品と言っている。ローラーを使うという発想は、教師が黒板に張っておいた見本から、取り入れたものである。教室の環境を、児童の気づきをうながす空間に整えておくことの大切さがわかる。このような〔共通事項〕を生かした教師の環境設定により、児童のイメージが広がり、感性がはぐくまれた場面と検証した。

③作品C（検証授業③から）



「緑の一つ」



「四季の山」



「かえるの歌」

画家になりきって描くという題材で、6人の画家の描き方の特徴をよく鑑賞し把握してから、制作したので、絵の表現に幅がある。描き方に特徴のある6人の画家から自分の気に入った表現を選び、制作している。画家の作品によさを見つけ出す感性と、そのよさを自分で解釈して表現していく感性の両方がはぐくまれていると検証した。絵の具の扱いは、いわさきちひろ風で絵の主題は片岡球子風のように二人の画家の作風を融合させて新たな表現を見出した作品（「四季の山」）や、片岡球子風に力強くかえるを描いてからポロックのドリッピングの技法を取り入れた作品（「かえるの歌」）なども見受けられ、画家の表現をただまねるというところから、一歩進んで、画家の表現から発展して、自分独自の表現方法にたどり着いていた。

作品A・B・Cから、形や色や材料の特徴にふれ、児童生徒の知的好奇心を刺激するように教師が題材や授業の展開を工夫して働きかけることで、児童生徒の形や色等への感覚がより豊かになり、自分のイメージが広がって、感性がはぐくまれることがわかり、研究仮説を裏づけることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究からみえてきたこと

（1）〔共通事項〕を生かし感性をはぐくむ

本研究を通して、教師は〔共通事項〕から題材を見つめ、形や色の特徴をとらえ、イメージをもつという視点で授業を展開していくことが大切であるとわかった。それは、題材を通して児童生徒に身につけてほしい形や色や材料に関する資質や能力は何であるのか、ねらいを明確にして指導をすすめることにつながる。その視点で授業を見つめると、題材、授業展開、環境設定、言葉がけなど工夫できることが多くある。児童生徒のそれまでの経験や知識からの発想や構想は、教師の働きかけや友達から認められること等により新たな意味や価値をもつ。そして、児童生徒の新しい概念が形成され、感性が研ぎ澄まされていく。

教師が児童生徒の取組に造形的な意味や価値を見いだすことにより、児童生徒は物事の新しい見方やイメージの広がりを実感し、よさを感じ取る感性や創造性を発揮する。私たちの身の周りには、豊かに感じ取る視点をもっていないと見過ごしてしまうものが多く存在する。教師が、児童生徒の形や色に関する気づきを認め、心の琴線にうったえかけるようにその気づきの本質にせまっていくことにより、豊かに感じ取る心の目をはぐくみ、感性を磨いていく。そこで〔共通事項〕は教師と児童生徒をつなぐ理解の視点となる。そのような指導を繰り返し積み重ねていくことが、私たち図画工作・美術科教育に携わる教師に、これから求められるものであるという考えに至った。

（2）〔共通事項〕の意味や可能性

①〔共通事項〕で育成する資質や能力はこれからの社会で生きるキー・コンピテンシー

〔共通事項〕が示す「形や色をとらえ、イメージする」ということは、図画工作・美術科の学習で

のみ、はぐくむことのできる資質や能力であるからこそ、私たち図画工作・美術科教育に携わる教師はしっかりとそのことを自覚し、指導していくことが大切である。形や色による非言語コミュニケーションは、OECDにおけるキー・コンピテンシーの「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力」の「言語、シンボル、テキストを活用する能力」や「知識や情報を活用する能力」にも通ずる能力である。¹⁰⁾異なる文化的背景をもつ人々と共存共栄していくこれからの社会では、言葉や文化を超えて、形や色を通して感性でわかり合える柔軟な思考が有用になっている。

②〔共通事項〕を適切に位置づけた指導は言語活動を充実させる

例えば、児童生徒がどんな表現にしようか考えているときには、「形や色をとらえ、イメージする」ことができるように、どんな感じに表現したいのか、「形」「色」「材料」などの造形的なキーワードで整理し、方向性を見つけられるように指導するとよいことが、検証授業を通して実感できた。そのためは、環境を整え、言語活動を充実させることが大切である。言語化やシンボル化をすることにより、児童生徒は自分の体験を整理し、それを形や色に置き換えてとらえ、イメージしていくことができるようになる。

児童生徒が楽しく自己表現できているときに教師が言葉をかける際も、「すごいね。」などの漠然としたものではなく、例えば「夕焼けの色が昼から夜へのグラデーションになっていてきれいだね。」というように、児童生徒が特徴をとらえられる言葉を豊かに選ぶことで、形や色の効果への理解が深まる。

これらのことから、〔共通事項〕の指導は、言語活動の充実につながるということが見えてきた。

③〔共通事項〕を生かした小中連携

〔共通事項〕は、新しい学習指導要領に加わった指導事項であるが、その内容は、図画工作・美術科の学習を支える普遍的なものである。今までは、大前提として、あえてクローズアップしていなかっただけのことにはすぎない。ゆえに、私たちは、何か新しい特別なことを取り入れるということではなく、「形や色をとらえる」という当たり前であるが、しっかり教える必要があることを再認識し、授業をつくっていかねばならない。大切な根本の部分に立ち返り、本質の部分で授業への共通理解を教師がはかることが大切である。〔共通事項〕は、図画工作・美術科での9年間の授業を通してはぐくむ資質や能力を育成する指導事項であり、小中の教師で共通理解を深め、授業に対する考え方や取組方で歩調を合わせていくことが大切であると協議を重ねる中で実感できた。形・色・イメージをとらえる力を発達段階に応じて形成していくことが、小中のスムーズな学びの連続性につながる。

2 今後の課題

〔共通事項〕を適切に位置づけ感性をはぐくむ指導の在り方を研究することで、題材を通して、児童生徒の身につについてほしい形や色やイメージに関する資質や能力は何か、教師がその題材のねらいをしっかりともち指導することが大切とわかった。そして題材のねらいが明確ということは、教師の評価の視点が明確ということである。教師が明確な評価への視点を持ち、指導と評価の一体化の充実をはかっていくことは児童生徒や保護者からも求められていることであり、今後も引き続き研究を進めていく必要がある。

今後も児童生徒の基礎的能力を伸ばし、感性を豊かにはぐくむことができるよう〔共通事項〕を生かす授業実践の研究に励んでいきたい。

¹⁰⁾ 文部科学省ホームページ「OECDにおける『キー・コンピテンシー』について」2008年公開

最後に研究を進めるにあたり、ご指導、ご助言をいただきました講師の先生、また校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

- 遠藤友麗 編著『新しい時代の学力づくり授業づくり 資質・能力を育てる 中学校美術科編「A 表現」』
 明治図書出版 2001年
- 佐藤学・今井康雄 編 『児童生徒の想像力を育む』 東京大学出版会 2003年
- 新野貴則・石賀直之 編 『小学校新学習指導要領の展開 図画工作編』 明治図書出版 2008年
- 福本謹一・水島尚喜 編 『中学校新学習指導要領の展開 美術科編』 明治図書出版 2009年
- 藤江 充・岩崎由紀夫・水島尚喜 外編『形・色・イメージ+これからの図画工作』
 日本文教出版 2009年
- 藤澤英昭・水島尚喜 編 『図画工作・美術教育研究 第三版』 教育出版 2010年
- 福本謹一 編 『新中学校 美術科題材案&授業展開の工夫』 明治図書出版 2010年
- 久保村里正 編 『これからの教科教育 図画工作・美術科』 文教大学出版 2010年
- 村上尚徳 「各教科等の改善／充実の視点 美術、工芸 授業改善の要点（一）」
 『中等教育資料』平成16年2月号, 64-65頁 2004年
- 村上尚徳 「解説／各教科等の展望 美術」
 『中等教育資料』平成20年6月号, 50-53頁 2008年
- 長町充家 「授業参観（3）題材開発」『美術科研究』編集室編『美術科研究・第26号・平成20年度』
 大阪教育大学・美術教室講座・芸術講座, 23-58頁 2009年
- 福本謹一 「〔共通事項〕を生かす図画工作、美術の授業改善に向けて」
 『形 Forme』No. 289, 4-8頁 2009年
- 奥村高明 「図画工作科の移行期の実践課題と指導の工夫」
 『初等教育資料』平成21年4月号（No. 846）, 33-36頁 2009年
- 奥村高明、木村早苗、岡田京子、鈴木陽子 「図画工作科における魅力ある教育計画の立案」
 『初等教育資料』平成21年6月号（No. 848）, 38-49頁 2009年
- 奥村高明他 「図工・美術の〔共通事項〕その解釈と適用」
 『教育美術』第70巻第7号（第805号）, 30-49頁 2009年

【指導助言者】

- 横浜国立大学准教授 小池 研二
- 川崎市立小学校図画工作研究会長（川崎市立稗原小学校長） 岡部 養一
- 川崎市立中学校教育研究会美術科部会長（川崎市立南加瀬中学校長） 成生 義幸
- 川崎市総合教育センター指導主事 佐藤 利行